

中播磨地域ビジョン情報誌

は り ま が 2022. 3 Hari Maga Vol.24



発行：中播磨地域ビジョン委員会



城の西公民館のビオトープ見学
(自然豊かな中播磨部会)



ハートフルフェスティバル
(安全安心中播磨部会)



大沢公民館視察
(元気交流中播磨部会・
銀の馬車道活性化グループ)

Contents

- 第10期役員の感想……………P2
- 各部会・グループ活動報告……………P2～5
- 中播磨県民センターからの
情報コーナー……………P5
- 中播磨地域力指標……………P6



カリンバ練習
(希望が育つ中播磨部会)



藤本 委員長

第10期中播磨地域ビジョン委員会はコロナ禍の渦中で終わろうとしています。従来の活動環境とは、大きく変わった中で事務局、専門委員、アドバイザーの精一杯のご支援と各部会リーダーをはじめ各委員のご尽力で活動成果をまとめることができました。

委員の皆さまと一堂に会する機会や、活動で地域の方々との交流も制限されたことは残念ですが、来期には「ひょうごビジョン2050」と「中播磨地域ビジョン2050」が策定されるのを機に、この環境を受け入れ、新たな活動の在り方を模索するチャンスと捉えればと思います。

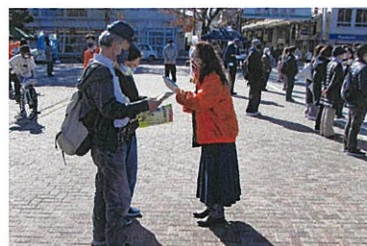


西尾 副委員長

今年もコロナ禍という活動が制限された中でしたが、戸惑いのあった前年度とは違い、それぞれの部会が知恵を持ち寄り、工夫をしながら活発に活動できました。

グループリーダーがしっかりと牽引してビジョン委員と専門委員の方々が見意を出し合い、今までに無かったZOOMや動画を活用したオンラインでの取組等を行う事で、しっかりと県内外に発信することが出来ました。

そういった意味で躍進をとげ、充実した中播磨地域ビジョン委員会でした。



浦上 副委員長

第10期はコロナ禍での活動でしたが、各部会リーダーを中心とした各委員の創意工夫と熱意溢れる活動の成果は、まさに『ピンチをチャンス』と変えた証であったと思います。副委員長として未熟な点、至らなかった点多々あったと思いますが、任期を終えることができましたのも、皆様からの温かな協力があればこそと実感しております。ここで得た知識と経験を活かし、今後も中播磨地域の発展に努めて参りたいと思います。2年間にわたり大変お世話になり、有難うございました。



希望が育つ中播磨部会

この部会では、子どもにとって魅力あるまちづくりをテーマに、親子で楽しめるイベントを企画し、子どもが元気に育つ地域づくりに繋げることができるよう活動を進めてきました。

第10期は、新型コロナウイルスの感染拡大により、イベントを企画してもなかなか実行に移せない、もどかしい2年間となりました。そのような状況でも親子で楽しめるツールは何かとグループで考えた時に、「カリンバ」という1つのアイデアが出ましたので、ここで紹介させていただきます。ぜひ「カリンバ」を手にとってご家族で演奏してみてください！

カリンバとは

アフリカ生まれの楽器で、箱に並んだ細い金属棒をはじいて演奏します。サムピアノまたはハンドオルゴールとも言い、板や箱の上には並んだ鉄や竹の棒を親指の爪ではじいて演奏します。

特徴

一説によると、オルゴールの起源にもなったと言われているらしく、音もオルゴールに似ています。演奏方法もシンプルなので、子どもでも楽しめますし、親子で伴奏もできます。音もそれほど大きくなく、マスクも着用しながらできるため、コロナ禍でも感染対策をしながら楽しむことができます。



カリンバ



カリンバの練習



打ち合わせをしている様子

安全安心中播磨部会

当初掲げていた活動目標は、「防災知識」を深め、学んだことを地域の防災訓練などの啓発活動でお返しをし、「地域貢献」する。この2本柱だった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、活動が制限され計画通りには進まなかった。年度計画を立てる段階でも委員同士の集まりが出来ず、各自宅からオンラインでのミーティングを2回実施。

話し合いの結果、啓発活動の場がない状況下でも自分達が出来てくれることをやろう!と「防災知識」を深めることに集約した。

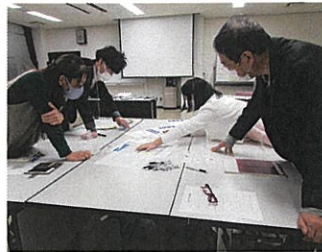
感染状況が落ち着いている時期に「姫路の水害について学ぶ」「HUG避難所運営ゲーム」「ダイレクトロードゲーム」を実施し、防災の学びを深めることができた。

姫路市危機管理室、兵庫県防災士会のご支援のもと、ワークショップをすることで新たな気づきを持ち、防災知識を身につけることは、自分の命の助けになるだけでなく、家族の命や地域を守ることに繋がることを実感した。例年実施されるビジョン委員の活動発表の場となる交流イベントは2年連続中止になったが、第10期から初参加した「東北復興支援ハートフルフェスティバル」では、2年連続で啓発活動の実現ができた。委員が中心となったAEDを活用した心肺蘇生の体験や防災マスク、防災スリッパづくりの体験コーナーに多くの親子が参加された。

コロナ禍の中でもビジョン委員会を通じて「今できることは何か」と発想を豊かにできたことや、人と人が交流できることの素晴らしさを改めて感じる事ができたことに心から感謝している。



東北復興支援ハートフルフェスティバルでの啓発活動の様子



災害シミュレーションゲーム「ダイレクトロード」を実施



自然豊かな中播磨部会

この部会では、自然環境の営みを大切にする地域をつくるため、豊かな自然の象徴である「ホタル」をテーマに、ホタルが生育できる環境を少しでも実現できるように活動をしてきました。

この2年間はコロナ禍だったため、思うように活動ができませんでしたが、そのようななかでも、メンバー同士で意見を出し合い、複数回にわたって勉強会を開催できたことは、大きな収穫だったと思います。

3月でビジョン委員会としての活動は一旦区切りを迎えますが、4月以降は個々の活動で、ビジョン委員会で学んだことを活かすことができればと思います。

主な活動紹介

● はりま里山研究所での勉強会

NPO 法人はりま里山研究所の熊谷理事長（兵庫県立大学名誉教授）から、中播磨地域の自然による講義と里山の見学をしました。

● 姫路市市政出前講座

「ホタルのおはなし」を受講
活動のテーマとして掲げている「ホタル」の生態について学びました。

● 城の西公民館でのホタルのピオトープ見学

城西地区連合自治会が城の西公民館で取組をされているホタルのピオトープづくり等を見学しました。

♪ ホタルが生育できる環境について学んだこと /

- 水で気を遣うのは、水質よりも水温です。水温が高すぎる（30℃以上）とホタルの幼虫が呼吸できなくなり、死んでしまいます。
- コンクリートが多いことや明るいこともホタルが飛ばない大きな原因として考えられています。
- 人間にとって便利で住みやすいところは、生物にとっては住みにくく、一番弱いホタルなどの昆虫から影響が出てしまいます。



はりま里山研究所の里山見学



市政出前講座「ホタルのおはなし」



ホタルのピオトープ見学



元気交流中播磨部会 銀の馬車道活性化グループ

2年の任期中コロナ禍が明けることもなく、何とか3回の実践的な活動機会を得ました。

当グループメンバーのいくつかの地域を代表する方々から、重ねてお話を伺ってまいりました。最初は各々手持ちの情報を持ち寄り、さらに理解を深めるために研究をしたいという方向へ進みかけました。そのうちお互いの活動を尊重し合い、見直し、課題の共有が始まり、ともに発信していこうとする繋がりへと自ずと進化を遂げました。

播磨には「銀の馬車道」に加え、「北前船」「塩のまち」「西国三十三所」の4つの日本遺産と世界遺産「姫路城」が互いに絡み合って存在しています。それは偶然ではなく、古来より住み続けてきた人々が主体となって営み、守り続けてきた証でもあります。

遺産そのものだけでなく、如何に播磨人の遺産を舞台にした営みを、点から面へ繋ぎ、伝え遺していけるかに正面から向き合わねばならないと感じました。

生野～船津 サイクリング試走



船津 大沢公民館 視察見学



網干 山本家住宅 視察見学



活動概要

1. 銀の馬車道体験事業 サイクリング試走
生野銀山跡～船津立場跡（神子畑交流館・「神選」含む）等
2. 船津 大沢公民館（銀の馬車道をはじめ様々な郷土資料の展示）等 見学
3. 網干 あほしまち交流館・山本家住宅・大覚寺 等 見学

元気交流中播磨部会 歴史文化グループ

過去の活動が、市川沿い中心だったため、活動を横へ広げる事と文化への意識を高める活動を行ってきました。全体活動では、「網干まちあるき」を実施したり、「日本玩具博物館」「はりま里山研究所」を訪問して、見聞を広げました。又、中播磨地域にも数多くの城跡があるため、数人で城跡を巡り案内板・駐車場有無等の確認をしました。



「網干まちあるき」では、「誠塾」「旧網干銀行」「山本家住宅」等を案内していただき、山本家住宅内で、部会のグループ会議を開きました。



「日本玩具博物館」では、館長から、自分で収集した玩具のほか、数多くの収集家からの寄付を受け、その継承への苦悩とコロナ禍による入館者数の激減、私的博物館文化への公的な支援を得る事の困難など、文化遺産の後世への伝承が課題であることを伺いました。

はりま里山研究所で「里山」についての話をお聞きしました。里山の維持には人の手入れが必要で、縄文時代の栗の木の栽培や、古墳時代以降に燃料として使用していた松が大切にされていたことが伺えました。





元気交流中播磨部会 食と交流グループ

晴天の中で発表できた「ビジョン委員会活動」♪

コロナ禍の収束を祈念しています。当グループには多才で多様なメンバーがいました。若手メンバーがいなくて、リモートでの会議や映像編集などの新しいことに取り組みながら、これまでの経験や技術を持ち寄って「日本酒と和菓子のペアリング」というテーマに挑戦しました。コロナ禍で苦労も多かったのですが、成果発表につなげられたことは有り難いです。

テーマは若い人をターゲットにしようとメンバー全員で考えました。アンケートを集めるなど、具体的に活動したことで、多くのことがわかりました。蔵元や、菓子職人、利き酒師などのプロにもアプローチしました。テイस्टングでは「初めての食べ合わせだったが、意外に美味しかった。自宅でも再度実践したい」など、斬新なテーマに対する、狙い通りの感想をいただきました。我々とテーマを同じくし、活動した別の団体や、関わった人々からの感想を見ても、カロリーや栄養を摂るだけではない、未来の食文化の可能性と、美味しい食べ物の持つ魅力を確認します。

我々のごく普通の県民が、地域の可能性を広げる活動に取り組んだ過程から、アフターコロナやSDGsを前向きに捉えるヒントを感じました。ご縁を大切にしながら、これからも仲間との楽しい地域活動に参画していきます。



コロナの状況、天候とも幸運に恵まれました。
11月28日(日)
「シェフたちのオーケストラ
舞台発表」の様子です。

オンラインを活用
したリモート会議
を重ねました!



登録者58名?!
(令和4年2月22日現在)
もっと増やしたかった...



中播磨地域ビジョン2050

中播磨県民センター
からの
情報コーナー

中播磨地域ビジョンが生まれ変わりました!

「中播磨地域ビジョン」(平成13年に策定、平成23年に改訂)の策定から20年、ビジョンの改訂から10年が経過し、社会情勢が大きく変化しているため、中播磨県民センターでは、令和2年度から新しいビジョンの策定に取り組みました。

中播磨地域の皆さんとの意見交換会である「ビジョンを語る会」や、地域住民有志の方々とワークショップを重ねるとともに中播磨地域の将来像を描く「中播磨地域デザイン会議」など、様々な機会でお伺いした意見をもとに、中播磨地域で活躍するキーパーソンや有識者等で構成される「中播磨新地域ビジョン検討委員会」で検討を重ね、令和4年3月に新しいビジョンとして「中播磨地域ビジョン2050」を策定しました。

これからは「中播磨地域ビジョン2050」の実現に向かって、一緒になって取り組んでいきましょう!



〈中播磨地域ビジョン2050のQRコード〉



ビジョンを語る会



中播磨新地域ビジョン検討委員会



中播磨地域デザイン会議

みんなでビジョンの実現状況を確認しよう

中播磨地域力指標

一フォローアップ指標一

ビジョンを実現する地域の力を測る「ものさし」です。
みんなで一緒に点検・評価していきましょう。



地域ビジョンの4つの“夢”に沿った34項目で、ビジョンの進捗状況をチェックします。住民の皆さんに地域課題や生活の実感等を尋ねる「兵庫の豊かさ指標」県民意識調査の結果などを活用。実感（主観）を重視した指標です。

今回の結果では、中播磨地域ビジョンの改訂前である平成22年度値との比較において、上昇項目が下降項目を上回っています。

特に、安全安心中播磨の★マーク1項目と、元気交流中播磨の★マーク2項目は県下で1番であり、中播磨の特徴を生かした活動が進んでいると言えます。

4つの“夢”	県民意識調査等指標群（主な項目）	R3	H22年度との比較
希望が育つ中播磨 子どもが元気に育つ、 つながりのある地域	住んでいる地域では子育てがしやすいと思う人の割合	60.4%	↑
	住んでいる地域の子どもは伸び伸びと育っていると思う人の割合	63.3%	↑
	住んでいる地域では、心の豊かさを育む教育や活動が行われていると思う人の割合	38.2%	↑
	住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している、または参加したい人の割合	34.2%	↓
	ボランティアなどで社会のために活動している、またはしてみたいという人の割合	32.4%	↑
	住んでいる地域で、異なる世代の人とつきあいがある人の割合	51.8%	↑
	若者が希望を持てる社会だと思う人の割合	13.1%	↑
	目的をもって学んでいるものがある人の割合	36.7%	↑
安全安心中播磨 みんなが安心して 暮らせる地域	災害時や困った時など、いざという時に声をかけ合える近隣の人がいるという人の割合	65.2%	↓
	住んでいる地域は高齢者にも暮らしやすいと思う人の割合	60.6%	↑
	★住んでいる地域は障害のある人にも暮らしやすいと思う人の割合	39.4%	↑
	かかりつけの医者がある人の割合	76.1%	↑
	健康づくりに取り組みやすい環境が整っている地域だと思う人の割合	52.2%	↑
	心身ともに健康であると感じる人の割合	66.8%	↑
	住んでいる地域で災害に備えた話し合いや訓練に参加している人の割合	25.7%	↓
	住んでいる地域は治安が良く、安心して暮らせると思う人の割合	77.5%	↑
自然豊かな中播磨 自然環境の営みを 大切にする地域	ごみの分別やリサイクルに取り組んでいる人の割合	84.6%	↓
	太陽光など「再生可能エネルギー」を利用する取組みに参加している、または参加したいと思う人の割合	25.0%	↓
	製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでる人の割合	49.3%	↓
	日頃から節電に取り組んでいる人の割合	77.8%	↓
	住んでいる市・町では、自然の生き物（動物・植物）とふれあう機会があると思う人の割合	36.7%	↓
	住んでいる市・町の自然環境は守られていると思う人の割合	42.1%	↓
	山林や川、海などの自然環境を守るための取組みに参加している、またはしたいと思う人の割合	25.5%	↓
	地元や県内でとれた農林水産物を買っている人の割合	62.4%	↑
元気交流中播磨 にぎわいと交流の 元気な地域	住んでいる市・町では、観光などの訪問客が増えていると思う人の割合	35.7%	↑
	外国人を見かけたり、外国人と接したりする機会が増えていると思う人の割合	28.2%	↑
	★住んでいる市・町には、自慢したい地域の「宝」（風景や産物、文化など）があると思う人の割合	72.4%	↑
	銀の馬車道など地域の資源を再発見し、歴史や文化を子どもたちに伝える取組に参加したいと思う人の割合	24.4%	↓
	住んでいる市・町の駅前や商店街に、活気が感じられると思う人の割合	25.3%	↑
	商売、事業を新たに始めやすいと思う人の割合	11.4%	↓
	性別や年齢を問わず、働きやすい環境が整っていると思う人の割合	10.9%	↑
	★優れた製品・技術・ブランド力を持った企業があることを知っている人の割合	46.6%	↑

情報誌に対する
問い合わせ先

中播磨地域ビジョン委員会事務局
〒670-0947 姫路市北条1-98

兵庫県中播磨県民センター 県民交流室総務防災課（ビジョン担当）
電話 (079) 281-9053 FAX (079) 285-1102
メール: nkharikem@pref.hyogo.lg.jp